

2017年をふりかえり・・・・・・・・

2017年はオリンピックまであと3年となったことから、ヘッドランドをつかったオープンウォータースイムの大会をはじめイベント行事がととも増えました。2016年サーフ90茅ヶ崎が支援したイベント数は23件でしたが、今年度は30件まで増え我々が絡まないイベントも数多く行われました。通常の監視体制の中、イベントガード・BBQ監視と毎回の活動に人手が必要な年でした。我々独自でも、シーバードの支援を受けシーバード茅ヶ崎としてPWCをフル活用し、学童保育の海の体験教室を開催しました。「題して、シーバード海の探検隊」の教室を茅ヶ崎南地区全学童保育に対し3回実施しました。その他社会福祉協議会からの依頼で実施している中学生の夏休みを利用したユースボランティアの受け入れの継続や、今年から高校生対象のインターシップボランティアの受け入れ、そして文教大学国際学部林薫教授からの依頼のゼミ学生のボランティア受け入れなど、青少年たちの教育と育成の現場としても大きな役目を果たしたと自負しています。また茅ヶ崎市における救護の施設として「国道134号沿線のAED設置」の場所として茅ヶ崎市のAED設置マップに掲載されるとともに誰もが使用可能な体制づくりにも貢献しました。また、茅ヶ崎市行政提案型協働推進事業「海浜利用におけるマナー啓発事業」もBBQ利用者には理解とともにマナーの向上がうかがわれ敷いてはゴミの減量にもつなぐことができ予定の2年間を無事終えることが出来ました。来期からは我々が「マナー啓発事業」をクラブとして継続実施し、それに対して茅ヶ崎市様より支援として補助金が給付される予定になりました。そしていよいよこの総会が終了するとともに20年目のスタートとなります。一口に20年といってもボランティアで20年間継続してくるということはただならぬそれぞれの努力と辛抱がありました。生活の中での仕事を通常に行い、休みを使ってボランティアを行う。勿論各々の家族の協力がなければ決して続けてくることはできなかつたと思います。茅ヶ崎のメンバーは60パーセントが20年間を継続しているメンバーで構成されています。また、それを陰から支援してきてくださった神奈川県様、茅ヶ崎市様、多くの企業様、地元協力団体様、そして個人の賛助会員様達がいたからこそ継続してこれたと感謝の念でいっぱいです。メンバー全員への感謝はもとより多くの支援者様があって続けられる活動であるとともに、継続して行かなければいけない使命を我々はおっているのだとつくづく感じました。

以上



サーフ90茅ヶ崎ライフセービングクラブ
代 表 小川 恵一郎